

区分	評価指標	実 績					R5年度実績と	目標値	自己	内容説明および	図書館協議会委員	外部評価委員
		R 元	R 2	R3	R4	R5年	目標値比較	R 5	評価点	事務局自己評価	からのご意見	からのご意見
図 書 館 運 営	基本的サービス											
	資料購入費・決算数値（千円）	11,135	13,865	11,263	12,911	13,596	—	—	C	・蔵書冊数は令和５年度実績は、令和５年度の目標を上回ったが、その他の基本サービスに関して目標に達成できなかった。その要因としては、新型コロナウイルスが令和5年5月までは感染症の分類で2類相当となっていたことから図書館全体の利用者の減がある。また、佐渡市の人口も毎年約1,000人程度減少を続けていることも要因の一つとなる。 ・令和5年度の分析として新型コロナウイルスが令和5年5月に5類に移行したこともあり、雑誌や新聞の閲覧に来館する人が戻りつつある。また猛暑の影響もあり、8月は来館者数が増加した。蔵書冊数は、除架除籍を行うなど適正な書架を維持できるよう努めた。 ・貸出冊数は令和4年度比較では横ばい。今後は人口減の影響により、貸出、来館共に大幅な増加の可能性は低いと考えるが、さわた図書館・子育て交流広場の計画も進んでいることから、一定程度の増加は期待できるので、更なる読書推進事業実施、情報発信を行う。	● <u>評価について</u> ・【評価点B】目標値が高いため自己評価はCであるが、私はBとする。特に個人の貸出冊数が減少したのは、人口減とユーチューブの発達で読書離れが思っている以上に進んでいるように感じる。来館者数もコロナ禍から少しづつ増加傾向にある。 ・目標値と実績から見ればC評価となるが目標値が妥当なのか疑問に思う。（目標値が妥当ならばB評価では？） ・自己評価及び評価内容は妥当と思われるが、目標値の設定に問題がなかったのか検証が必要と思われる。 ● <u>内容説明および自己評価について</u> ・人口減は全国的な課題であり、結果として利用者の減少になっていることもあろう。本好きの子供を育てるには、本好きの大人を図書館に呼び込むことも大事。施設のこともあり、難しいであろうが立ち寄りやすい雰囲気醸成を期待する。限られた予算の中で、市民の要望する図書の選定には大変なご苦労だと思います。敬意を表します。 ・目標数値が実態に合っていない（人口減少、読書者人口の減少等考えると）適正な目標数値の設定が必要と考えられる。 ・R5年5月に新型コロナウイルスが5類へ移行したことを考えると、令和3年令和4年以上に貸出冊数と登録者数が回復してもよいと思うが、なぜ数値が増えなかったのか具体的な検証が必要と感じました。（新規登録者及び来館者数の増加と比例してないものでしょうか？）さわた図書館の移転ばかりに期待をせず、各図書館での取り組みを改める必要があると感じました。 ・今後、人口減少もあり来館者や貸出冊数は減っていくと予想されます。それを見込んだ目標値の設定が必要かと、全体の目標値が高すぎる感があります。新施設（子育て交流ひろば等）での本にふれあうきっかけづくりや情報発信に期待します。 ・急速に人口減少が進んでいることから考えると目標の数値設定に無理があるように感じる。市の現状からみれば、実績は検討している数値と言えるのではないだろうか。 ・蔵書冊数が目標値を大きく上回っている点は、資料購入費の増加によるものか、除籍が追いついていないことによるのか、内容の精査が必要と考える。 ・人口減での影響はどんな社会でも、色々な形で見えてきています。その中で、できることは何かいつも考えていますが、図書館でしたら何ができるのか、私も考えてみます。 ・コロナが明けても来館者数に大きく影響が出ないように思う。 ・さわた図書館への期待と各館でのイベント等に期待する。	● <u>評価について</u> ・非常に高い目標値なので自己評価はCと低いですが努力してくれています。 ・ B評価 ● <u>内容説明および自己評価について</u> ・強いて数字を上げるためには高齢者学級（各公民館）とか元気応援団のグループに図書館活動を理解してもらうような活動を1コマ入れてもらえるように働きかけてはどうですか。 ・①資料購入費・決算数値②蔵書冊数 購入費・決算数値が年々増加していることは評価できる。活字離れが進むなかで、読書活動を推進するためには大変なことだと考える。 ③個人の貸出冊数④登録者数 佐渡市人口の減少がコロナ禍の影響もあるうが、貸出冊数の令和5年の実績値が令和3年・令和４年よりも減少しているのはなぜなのか。登録者数についても令和5年は少なくなっている。 ⑤来館者 令和5年の来館者は、目標値には達しないものの、コロナ禍から回復し、徐々に増えてきていることは良い傾向だと思えます。
	蔵書冊数	352,736	361,469	362,982	365,428	371,822	11,822	360,000				
	個人の貸出冊数	252,757	217,103	251,887	244,556	228,213	▲ 71,787	300,000				
	登録者数	17,012	17,709	15,416	15,158	13,404	▲ 6,596	20,000				
	（うち新規登録者数）	859	701	840	559	776	▲ 424	1,200				
	来館者数	163,702	101,925	120,964	127,060	136,216	▲ 18,784	155,000				
1	佐渡に暮らす子どもたちの豊かな心を育む図書館											
	12歳以下子ども一人当たりの児童書数	22	25	25	27	30	7	23	A	・12歳以下の一人当たりの児童書数は、住民基本台帳の年齢別人口によると令和6年3月31日時点で児童の数は3,672人であり、図書館の児童書数108,386冊となっていることから一人当たり29.5冊で、目標を上回った。 ・R2年度にコロナ交付金で購入したパワーアップ事業定期便（小学校への図書貸出）を継続実施。 ・学校等との連携については、子育て支援センター、学校への読み聞かせ（120回）などを実施。学校図書館との合同の研修会、佐渡小学校教育研修会、校長会にも参加し、情報共有に努めた。	● <u>評価について</u> ・【評価点A】児童一人当たり約30冊、団体貸出も目標をはるかに超えている。学校との連携も3回とし職員の努力を感じることができる。 ・12歳以下子どもでも一人当たりの児童書数が年々増加しており、良い傾向だと思います。具体的にどんな影響を受けての結果なのか、そこを推察して更なる取り組みや働きかけの強化をしていただきたいです。 ・自己評価及び評価内容は妥当と思われる。 ● <u>内容説明および自己評価について</u> ・学校、保育園などとタイアップ等をすすめ、さらなる増加を期待します。 ・子ども達の読書環境は、大変充実していると思います。関係者や職員の相連工夫と努力を評価します。 ・佐渡市における子どもの読書環境は整っていると考えれる。 ・家から市立図書館が近いなどの理由で市立図書館を利用しにくい地域の子どももいるので、これからも学校への団体貸出を積極的に行い、子どもが様々な本に接する機会を作っていただきたい。 ・学校等との連携について、様々な機会を設け努力されたことが伺える。これからも学校と情報共有をして佐渡の子ども達の学びの環境を支えていただきたい。 ・とてもすばらしいと思います。2校に読み聞かせに行っているのですが、子ども達の読書力が増えたように見られます。気軽に手の届く所に本があることがいいのかと思います。 ・子どもと子をもつ母親に寄り添える図書館であってほしい。	● <u>評価について</u> ・ A評価 ● <u>内容説明および自己評価について</u> ・計画に沿えるように努力されています。 ・①12歳以下子どもの一人当たりの児童書数 ②小・中・高等学校への団体貸出冊数 いずれも、目標を大きく上回っており、コロナ禍でも子ども達の読書機会を確保しようとする職員の皆様の努力が伝わります。特に、「図書館パワーアップ事業」が効果的だったのでしょうか？ ③学校図書館との懇談会、合同研修会については、コロナ禍では開催が困難であり致し方なかったが、令和5年に目標値を達成できたことは評価できる。
	小・中・高等学校への団体貸出冊数	7,796	10,211	12,252	12,334	12,123	2,123	10,000				
	学校図書館との懇談会、合同研修会 回数	2	0	0	1	3	0	3				

[illegible]

